

令和4年度

武蔵野市桜野地域子ども館桜野こどもクラブ

第三者評価 結果報告書

機構:02-030:特定非営利活動法人 NPOサービス評価機構

## 武蔵野市桜野地域子ども館桜野こどもクラブ 第三者評価

### I 評価概要

#### (1) 評価対象

評価施設 武蔵野市桜野地域子ども館桜野こどもクラブ

#### (2) 評価機関

特定非営利活動法人 NPOサービス評価機構

#### (3) 評価日程

令和4年8月5日～令和5年3月28日

訪問調査日 令和5年2月13日

### II 評価方法

#### (1) 評価結果の構成

評価結果は、利用者の声を聞く「利用者調査」と事業者の自己評価をもとに評価者が分析した「事業評価」の結果で構成されます。利用者調査結果は、各評価項目の回答状況で表します。事業評価結果は、全体の評価講評（「特に良いと思う点」、「さらなる改善が望まれる点」）、事業者が特に力を入れている取り組み及び各評価項目についての評点及び講評で表します。

#### (2) 事業評価の表し方

事業評価は4つのカテゴリーに分けて評価する仕組みになっています。

##### 【カテゴリーの構成】

#### I 育成支援の基本方針と組織

- 1 理念・基本方針
- 2 運営状況の把握
- 3 事業計画の策定
- 4 育成支援の質の向上への組織的・計画的な取り組み

#### II 組織の運営管理

- 1 管理者の責任とリーダーシップ
- 2 福祉人材の確保・育成
- 3 運営の透明性の確保
- 4 地域との交流、地域貢献

#### III 適切な育成支援の実施

- 1 利用者本位の育成支援
- 2 育成支援の質の確保

#### IV 育成支援

- 1 子どもが安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備
- 2 学童クラブにおける育成支援
- 3 子ども一人ひとりと集団全体の生活を豊かにする育成支援
- 4 固有の援助を必要とする子どもへの適切な育成支援
- 5 適切なおやつを提供
- 6 安全と衛生の確保
- 7 保護者・学校との連携

#### ●カテゴリーの評点

各評価項目はその評価項目に属する1～7個の標準項目（※）について、実施が確認できたものを「あり」、実施が確認できないものを「なし」で表し、それらを並べたものが評点です。

※標準項目は、「東京都福祉サービス評価推進機構」が福祉サービスの質の向上を図る観点から、標準的に実施していることが必要であると認められる事項、または実施するための仕組みがあることが必要であると認められる事項を基本とし、子ども家庭支援センターとして必要とされる標準的な評価項目で構成しています。なお、標準項目を確認できたとすることができるのは、①事業者が当該事項を実施していること、②その実施が継続的（必要性を認識し、計画的）であること、③その根拠が示せることを充足した場合です。

#### ●講評

評点だけでは、実際のサービスの具体的な状況や、それぞれの事業者が工夫している多様な取り組みを説明できないため、評点では表現しきれない事業者の実態や課題、サービスの現状等については、「講評」欄に記載されています。

## 組織マネジメント項目（カテゴリーⅠ～Ⅲ）

No.	共通評価項目	
Ⅰ	カテゴリーⅠ	
	育成支援の基本方針と組織	
	サブカテゴリーⅠ-1	
	理念・基本方針	
	評価項目 Ⅰ-1-(1) 理念・基本方針、基本方針が確立・周知されている	
	評点 (○)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし <input type="radio"/> 非該当	① 理念、基本方針が明文化され、周知が図られている
	サブカテゴリーⅠ-2	
	運営状況の把握	
	評価項目 Ⅰ-2-(1) 経営環境の変化等に対応している	
	評点 (○○)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし <input type="radio"/> 非該当	① 事業経営を取り巻く環境と経営状況が的確に把握・分析されている
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし <input type="radio"/> 非該当	② 運営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている
	サブカテゴリーⅠ-3	
	事業計画の策定	
	評価項目 Ⅰ-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている	
	評点 (○○)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし <input type="radio"/> 非該当	① 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし <input type="radio"/> 非該当	② 中・長期的なビジョンを踏まえた単年度の計画が策定されている
	評価項目 Ⅰ-3-(2) 事業計画が適切に策定されている	
	評点 (○○)	
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし <input type="radio"/> 非該当	① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし <input type="radio"/> 非該当	② 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している	
サブカテゴリーⅠ-4		
育成支援の質の向上への組織的・計画的な取り組み		
評価項目 Ⅰ-4-(1) 質の向上に向けた取り組みが組織的・計画的に行われている		
評点 (○○)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし <input type="radio"/> 非該当	① 放課後児童クラブの質の向上に向けた取り組みが組織的に行われ、機能している	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし <input type="radio"/> 非該当	② 評価結果に基づき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している	

I	カテゴリー I	
	育成支援の基本方針と組織	
	カテゴリー I の講評	
	<p><b>「武蔵野市学童クラブ育成指針」を職員個々に配布し、入職時に読み合わせなどをして確認している</b></p> <p>市が作成している「武蔵野市学童クラブ育成指針」を市のホームページで公開し、保護者・職員・関係者に情報提供している。当学童クラブの支援員に当育成指針を配布し、入職時に読み合わせなどをして確認している。また、武蔵野市第六期長期計画および第五次子どもプラン武蔵野を策定しており、それに基づき、運営法人でも中期計画および人材育成方針を策定している。さらに当学童クラブにおいて年間計画を策定している。年間計画の作成にあたっては職員の意見も反映しており、半期ごとの振り返りと自己評価をおこなうことで目標への意識づけを図っている。</p> <p><b>保護者に「武蔵野市学童クラブ育成指針」を配布・説明している</b></p> <p>2月の半ば頃に対面形式で入会説明会をおこない、資料配布に加え、日ごろの様子などの画像を保護者に見せながら、学童クラブの取り組みについて説明している。また、保護者会を開催し、「武蔵野市学童クラブ育成指針」を配布・説明し、当学童クラブの育成支援で大切に行っていることなどを伝えている。学期ごとに1回の頻度で、学年ごとに子どもとの話し合いの場を設定し、当学童クラブの行事計画などについて周知している。たとえば、3年生以上の子どもたちとは「3年生会議」を実施し、子どもたち主導で行事を進められるようにしている。「1年生会議」では上級生がいないため、意見を聴き出す機会としている。「2年生会議」ではリーダーシップが取れるような話し合いをしている。</p> <p><b>武蔵野市と運営法人事務局で定例会議を設け、計画の進捗状況を確認するとともに課題を共有している</b></p> <p>武蔵野市と運営法人事務局で定例会議を設け、計画の進捗状況を確認するとともに課題を共有している。また、館長会議や主任会議を定期的に開催し、事業運営における課題点の共有と改善策の検討をおこなっている。また、より良い運営に向け、アドバイザーや育成相談員が定期的に巡回し、育成支援の改善に向けたアドバイスをおこなっている。育成相談員は発達心理士の資格を保有し、市が契約している。障害を抱える子どもを観察し、その後、支援員との質疑応答の時間を設けている。アドバイザーは運営法人との契約で元保育園・児童館・子ども館館長の勤務歴を持ち、各種相談に応じている。</p>	
II	カテゴリー II	
	組織の運営管理	
	サブカテゴリー II-1	
	管理者の責任とリーダーシップ	
	<p>評価項目 II-1-(1)</p> <p>管理者の責任が明確にされている <span style="float: right;">評点 (OO)</span></p>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし ○非該当	① 児童青少年課・子ども協会・館長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し、理解を図っている
	●あり ○なし ○非該当	② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている
	<p>評価項目 II-1-(2)</p> <p>館長のリーダーシップが発揮されている <span style="float: right;">評点 (OO)</span></p>	
	評価	標準項目
●あり ○なし ○非該当	① 学童クラブの質の向上に意欲を持ち、その取り組みに指導力を発揮している	
●あり ○なし ○非該当	② 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している	
サブカテゴリー II-2		
福祉人材の確保・育成		
<p>評価項目 II-2-(1)</p> <p>福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている <span style="float: right;">評点 (OO)</span></p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし ○非該当	① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている	
●あり ○なし ○非該当	② 総合的な人事管理が行われている	
<p>評価項目 II-2-(2)</p> <p>職員の就業状況に配慮がなされている <span style="float: right;">評点 (O)</span></p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし ○非該当	① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる	
<p>評価項目 II-2-(3)</p>		

職員の質の向上に向けた体制が確立されている		評点 (〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし <input type="radio"/> 非該当	① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし <input type="radio"/> 非該当	② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし <input type="radio"/> 非該当	③ 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている	
評価項目 II-2-(4)		
実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている		評点 (〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし <input type="radio"/> 非該当	① 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている	
<b>II</b>		
<b>カテゴリー II</b>		
<b>組織の運営管理</b>		
<b>サブカテゴリー II-3</b>		
<b>運営の透明性の確保</b>		
評価項目 II-3-(1)		
運営の透明性を確保するための取組が行われている		評点 (〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし <input type="radio"/> 非該当	① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし <input type="radio"/> 非該当	② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている	
<b>サブカテゴリー II-4</b>		
<b>地域との交流、地域貢献</b>		
評価項目 II-4-(1)		
地域との関係が適切に確保されている		評点 (〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし <input type="radio"/> 非該当	① 放課後児童クラブと地域との交流を広げるための取組を行っている	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし <input type="radio"/> 非該当	② ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし、体制を確立している	
評価項目 II-4-(2)		
関係機関との連携が確保されている		評点 (〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし <input type="radio"/> 非該当	① 学童クラブとして必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている	
評価項目 II-4-(3)		
地域の福祉向上のための取組を行っている		評点 (〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし <input type="radio"/> 非該当	① 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし <input type="radio"/> 非該当	② 地域の福祉ニーズに基づく公益的な事業・活動が行われている	

カテゴリーⅡの講評

「放課後児童クラブ運営指針解説書」を読み合わせ、遵守すべき事項の理解浸透を図っている

「武蔵野市学童クラブ育成指針」「放課後児童クラブ運営指針解説書」を職員個々に配布している。館ミーティングで育成指針の読み合わせを実施し、学童クラブ事業の目的や支援員の役割等を再確認している。また、定期的に職員皆で「放課後児童クラブ運営指針解説書」の読み合わせを実施し、児童福祉法等の法令の正しい理解に努めている。毎月の館長会議で話し合った運営課題や現行の問題点、解決策などについて、館ミーティングなどで報告し、より良い運営や育成支援の意識向上を図っている。

館ミーティングやケース会議を実施し、育成支援の質の向上を目指している

運営法人が人材育成方針を策定しており、「目指す職員像」を職員に示している。また、今年度より人事評価制度を導入し、職員個々と面談をおこない、目標の設定やその達成状況の確認、評価結果についてフィードバックをおこない、能力開発を図っている。また、法人の人材育成方針や研修計画に基づき、長期的視点で人材育成に計画的に取り組んでいる。自己研鑽の機会として外部の研修情報を積極的に提供し、研修参加を促している。研修受講後は研修レポートの作成・提出を義務づけている。館ミーティングやケース会議を実施し、課題を共有したり、対応について議論し考えていく機会をつくり、育成支援の質の向上を目指している。通信教育助成もおこない、自己研鑽の意欲を高めている。

「開かれた学校づくり協議会」などに参加し、地域との連携強化に取り組んでいる

桜野小学校とは随時、情報交換・情報共有をおこなっている。「桜野地域子ども館推進会議」では、PTAや地域の団体から協力をいただき、地域子ども館イベントを年3回実施している。青少年の健全育成のために活動している「青少年問題協議会」桜野地区の会議に館長が参加し、参加メンバーであるPTA・コミュニティセンター・ボランティア団体・民生委員・中学校などと情報共有している。「開かれた学校づくり協議会」に参加し、学校教育活動の方針や課題等を関係団体と共有し、連携協力をおこなっている。年1回、子育て支援ネットワーク実務者連絡会議にも参加している。

カテゴリーⅢ

適切な育成支援の実施

サブカテゴリーⅢ-1

利用者本位の育成支援

評価項目 Ⅲ-1-(1)

子どもや保護者等を尊重する姿勢が明示されている

評点 (〇〇)

評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし <input type="radio"/> 非該当	① 子どもや保護者等を尊重した育成支援について共通の理解を持つための取組を行っている
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし <input type="radio"/> 非該当	② 子どもや保護者等のプライバシー保護に配慮した育成支援が行われている

評価項目 Ⅲ-1-(2)

育成支援の提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている

評点 (〇〇)

評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし <input type="radio"/> 非該当	① 利用希望者に対して学童クラブ選択に必要な情報を積極的に提供している
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし <input type="radio"/> 非該当	② 学童クラブの利用開始・変更にあたり、子どもや保護者等にわかりやすく説明している

評価項目 Ⅲ-1-(3)

子どもや保護者等の満足の向上に努めている

評点 (〇)

評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし <input type="radio"/> 非該当	① 子どもや保護者等の満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている

評価項目 Ⅲ-1-(4)

子どもや保護者等が意見等を述べやすい体制が確保されている

評点 (〇〇●)

評価	標準項目
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし <input type="radio"/> 非該当	① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし <input type="radio"/> 非該当	② 子どもや保護者等が相談や意見を述べやすい環境を整備し、子どもや保護者等に周知している
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし <input type="radio"/> 非該当	③ 子どもや保護者等からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している

評価項目 Ⅲ-1-(5)		安心・安全な育成支援のための組織的な取組が行われている		評点 (〇〇)
評価		標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし <input type="radio"/> 非該当	①	安心・安全な育成支援を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし <input type="radio"/> 非該当	②	感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし <input type="radio"/> 非該当	③	事故・災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている		

Ⅲ

カテゴリーⅢ

適切な育成支援の実施

サブカテゴリーⅢ-2

育成支援の質の確保

評価項目 Ⅲ-2-(1)		提供する育成支援の標準的な実施方法が確立している		評点 (〇〇)
評価		標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし <input type="radio"/> 非該当	①	育成支援について標準的な実施方法が文書化され、育成支援が提供されている		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし <input type="radio"/> 非該当	②	標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している		

評価項目 Ⅲ-2-(2)		子どもに対する育成支援の計画が策定されている		評点 (〇〇)
評価		標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし <input type="radio"/> 非該当	①	育成支援の計画を適切に策定している		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし <input type="radio"/> 非該当	②	定期的に育成支援の計画の評価・見直しを行っている		

評価項目 Ⅲ-2-(3)		育成支援実施の記録が適切に行われている		評点 (〇〇)
評価		標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし <input type="radio"/> 非該当	①	子どもに関する育成支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし <input type="radio"/> 非該当	②	子どもや保護者等に関する記録の管理体制が確立している		

カテゴリーⅢの講評

**入会のしおりなど保護者の相談の受け入れについて周知し、個別の相談をしやすい環境を整えている**  
 保護者に対して、入会のしおりなどを使って、相談の受け入れについて周知している。定期的な保護者会や個人面談を実施し、子どもたちの成長や学童クラブの取り組み等について伝え、保護者の意向や悩み等も聴き取る機会としている。保護者の相談には否定せず受け入れ、気持ちに寄り添いながら一緒に考えていくことを心掛けている。保護者の相談内容については主任支援員を中心に全支援員で共有し、必要に応じて館長が中心となり対策を検討している。保護者の相談内容によっては児童青少年課や子ども協会事務局、学校、子ども家庭支援センター等に報告し、相談しながら対応している。

**事故が起きた際は要因や経緯等を振り返り事故報告書にて報告し、再発防止に努めている。**  
 安全管理マニュアルが用意されており、あらゆるリスクに迅速に対応できるようにしている。事故が起きた際は要因や経緯等を振り返り事故報告書にて報告し、再発防止に努めている。コロナウイルス感染症対策として、検温、消毒（1日2回）の徹底を図っている。24時間空調システムが付帯されているが、窓を開けての換気もおこなっている。また、おやつ提供時は、飛沫防止のパーテーションを使っている。年3回、火災や地震を想定した避難訓練を実施し、災害時に適切な行動が取れるよう子どもへの意識づけを図っている。ホワイトイーグルの巡回から市内の事件・事故等の情報を共有し、子どもにも伝え、注意喚起している。

**館長会議、主任会議、支援員会議などを定期的に開催し、育成支援に関する見直しや改善を図っている**  
 館長会議、主任会議、支援員会議、障害児委員会、育成委員会を定期的に開催し、育成支援に関する見直しや改善を図っている。「学童クラブ業務の手引き（運営編・育成編）」「おやつ提供マニュアル」などを作成し、業務の標準化を図っている。また、「武蔵野市個人情報保護条例」「武蔵野市情報セキュリティ基本方針」や、法人作成の「個人情報保護基本方針」に則り、個人情報の取り扱いを慎重におこなっている。パソコンには、パスワードを設け、アクセス権限を敷いている。個人情報は鍵のかかる棚で保管している。職員に対しては、年1回、および、必要に応じて情報セキュリティ研修を実施している。

## 育成支援（カテゴリーⅣ）

No.	共通評価項目	
Ⅳ	カテゴリーⅣ	
	育成支援	
	サブカテゴリーⅣ-1	
	子どもが安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備	
	評価項目 Ⅳ-1-(1) 子どもが安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境を整備している <span style="float: right;">評点 (〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし <input type="radio"/> 非該当	① 室内のレイアウトや装飾等にも配慮し、子どもが心地よく過ごせるような生活環境づくりに取り組んでいる
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし <input type="radio"/> 非該当	② 子どもが宿題や読書、自習等の学習活動を自主的に行える環境づくりに取り組んでいる
	サブカテゴリーⅣ-1 の講評	
	<p><b>子どもの生活や遊びに必要な設備を整え、季節の装飾や関心の高い活動に関係の掲示などを行っている</b></p> <p>当学童クラブは、5つのクラブ（育成支援室）に分かれており、それぞれのクラブには季節を感じる装飾や、大きな百人一首の読み札、けん玉検定表など、関心が高く盛り上がっている活動に関係のある掲示をしている。室内には今日のスケジュールを示すホワイトボードや各自のランドセル・上着などをいれる棚（ロッカー）、子どもたちの年齢発達に合わせて興味関心のある漫画や歴史物書籍、図鑑などが入った本棚、ボードゲームやオセロ、将棋などが用意された玩具棚を設置している。冷蔵庫や電子レンジ、テーブルなどおやつを用意するコーナーも用意されている。室内には机上の遊びや宿題、おやつを食べる座卓が並び、隅には座ったり腰を下ろして遊べるようなスペースを設けている。</p> <p><b>宿題などの学習活動はいつするのか自分で考えて取り組んでいる</b></p> <p>クラブ室には座卓が並べあり、一人ひとりの席を決めた座席表を壁に掲示している。ホワイトボードには、今日の生活の流れと子ども一人ひとりの降所時間をマグネットの名札で示して、子どもが見通しをもって主体的に過ごせるようにしている。17時から20分間宿題や読書の時間を設けているが、子どもの降所時間は16時、16時30分、17時、それ以降とさまざまであり、自分の降所時間に合わせて早めに宿題に取り組む子どもや遊ぶ子ども、17時から宿題をする子どもなど、自分の生活の流れを確認して、宿題をいつするか自分で考えて取り組んでいる。宿題は基本的に自分でしているが、わからないで困っている場合など、必要に応じて励ましたり見守ったりしている。</p>	
サブカテゴリーⅣ-2		
学童クラブにおける育成支援		
評価項目 Ⅳ-2-(1) 子どもが学童クラブに自ら進んで通い続けられるように援助している <span style="float: right;">評点 (〇〇)</span>		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし <input type="radio"/> 非該当	① 学童クラブに通う必要性を子どもが理解できるよう保護者とともに援助し、放課後及び学校休業日の生活の場として、一人ひとりの子どもが尊重され、安心してのびのびと過ごせる場となるよう配慮している	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし <input type="radio"/> 非該当	② 新入会の子どものためには、利用者の開始前に子どもや家庭の状況、保護者の希望を聞き取るとともに、学童クラブでの過ごし方について伝え、保護者と情報交換している	
評価項目 Ⅳ-2-(2) 子どもの出欠席を把握し、適切に援助している <span style="float: right;">評点 (〇)</span>		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし <input type="radio"/> 非該当	① 出欠席、登所、退所等についての報告は保護者から直接受け、子どもの所在を把握している	

サブカテゴリーⅣ-2 の講評

学童クラブに通う必要性が分かり、友だちと一緒に楽しく過ごせるようにしている

子どもたちには学童クラブに来ることで保護者が安心して働くことができ、それが家族にとっても大切なことであることを常日頃からわかりやすい言葉で伝えている。家庭でも同じように子どもに伝えてもらうようお願いしている。学童クラブは家族が日中に在宅していない子どもにとって必要不可欠な場所であり、友だちと一緒に楽しく過ごせる場所になるように、けん玉や百人一首、ペーゴマなどの伝承遊びの大会や検定、さまざまな行事などを開催している。

新入会の子どもにとって、学童クラブが楽しいところになるようにしている

4月入会の新1年生の保護者を対象に2月中旬頃に入会説明会を実施して、学童クラブの生活について説明している。事前に記入してもらった児童調査票で、父母の勤務先や緊急時の引き取り先、かかりつけ医療機関、平熱、気管支喘息・食物アレルギーの有無、治療中の病気などを把握している。食物アレルギーや障害など特に配慮が必要な子どもについては、別日に聴き取りをしている。保護者には質問などはいつでも受けることを伝えている。4月当初は新入会児にとって、新しい環境での生活になるため、学校内を案内したり、生活や遊びのルールなどを少しずつ教えている。入学式までの数日間は、可能であれば短めのクラブでの生活にして早めに帰宅するなどの配慮をお願いし、子どもにとってクラブが楽しく過ごせる場所になるようにしている。連絡帳には、クラブでの子どもの様子を詳しく記入して、保護者にも安心してもらえるようにしている。

連絡帳や電話などで子どもの出欠席や降所時間の連絡を受け、所在を把握している

出欠席や降所時間は、連絡帳や保護者からの電話などで直接連絡を受けている。保護者には、連絡帳に当日の降所時間と一人帰りか保護者の迎えかを記入してもらっている。その他にも当クラブ独自に、毎月、日にちごとの出欠と降所予定時間を記入した出欠予定表を提出してもらっている。連絡帳に記入がない場合には月ごとの出欠予定表を参考にし、それでもわからない時には電話をかけて確認している。

サブカテゴリーⅣ-3

子ども一人ひとりと集団全体の生活を豊かにする育成支援

評価項目 IV-3-(1)

子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるように援助している

評点 (○)

評価	標準項目
◎ あり ○ なし ○ 非該当	① 子ども自身が見通しをもって主体的に過ごせるよう、全体に共通にする生活時間の区切りをつくり、放課後等の時間を自己管理できるように支援している

サブカテゴリーⅣ-3-(1) の講評

生活の流れをいつも同じにして、子ども自身の気づきを促している

その日の学童クラブでの生活の流れや時間配分（スケジュール）を支援員全員がミーティングで確認し、ホワイトボードに書いて子どもたちに知らせ、子ども自身の気づきを促すことを大事にしている。生活の流れはいつも同じにして、15時15分頃に片付け・おやつ、16時40分に帰りの会を開いている。片付けや帰りの会は3年生が中心となって声かけをしてくれることが多い。子どもたちが気付かない時には、指導員が子どもを誘って一緒に声かけしている。子どもたちに伝える必要がある行事の予定やお知らせ、注意事項などは、おやつ前の着席している時に伝えている。

評価項目 IV-3-(2)

日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるように援助している

評点 (○○)

評価	標準項目
◎ あり ○ なし ○ 非該当	① あいさつや自分のことは自分で行う等の基本的な生活習慣が身に付き、自立につながるよう支援する
◎ あり ○ なし ○ 非該当	② 子どもが協力し合って学童クラブの生活を維持していくことができるよう、集団で過ごすという特性を踏まえて、一緒に過ごす上で求められる協力及び分担や決まりごと等を理解できるように支援している

サブカテゴリーⅣ-3-(2) の講評

生活習慣が身につくよう、挨拶などは支援員から積極的にしていき、習慣化できるようにしている

「ただいま」や「おはようございます」などの挨拶は支援員から積極的にしていくことで子どもも挨拶が習慣化できるようにしている。登所時にはランドセルや上着、荷物などを自分のロッカーに置き、手を洗う、連絡帳を提出する、検温してもらうなどの生活習慣は、支援員が手を出し過ぎないように、子どもが自分でできるよう見守り、必要に応じて声かけをし、身につくように働きかけている。

テーブルごとの班を決めて、3年生が班長選挙に立候補して選ばれ、役目を果たしている

テーブルごとの班を決めており、おやつ時には班で準備や片付けをしている。班長は3年生で、班長選挙に立候補して、リーダーとしての意欲や班で目指したいことなどを示して選ばれている。しかし、現在はコロナ禍のために、特別な班活動の機会は少ないが、おやつ時には「いただきます」「静かにしましょう」などの声かけが班長の役割になっている。

サブカテゴリⅣ-3

子ども一人ひとりと集団全体の生活を豊かにする育成支援

評価項目 IV-3-(3)

子どもが発達段階に応じた主体的な遊びや生活ができるように援助している

評点 (〇〇〇〇〇〇)

評価	標準項目
●あり ○なし ○非該当	① 日常の子どもの心身の状況を把握し、健康管理を適切に行っている
●あり ○なし ○非該当	② 子どもの発達状況、家庭状況、学校での生活等を把握し、一人ひとりの心身の理解に取り組んでいる
●あり ○なし ○非該当	③ 制作活動や伝承遊び、地域の文化に触れる体験等の多様な活動や遊びを工夫している
●あり ○なし ○非該当	④ 自由遊びにおいては、発達段階に応じた主体的な遊びにより、一人ひとりの力や意欲が引き出せるよう支援している
●あり ○なし ○非該当	⑤ 遊びや各種活動を通して、自主性、社会性、創造性、協調性が育つよう支援している
●あり ○なし ○非該当	⑥ あそべえや地域の公園等、学童クラブ以外の空間も活用し、子どもが快適に過ごす環境作りに努めている
●あり ○なし ○非該当	⑦ あそべえ、コミュニティセンター、児童館等の行事に参加するとともに、校庭や公園等を活用し、子どもの遊びの範囲が広がるよう支援している

サブカテゴリⅣ-3-(3) の講評

子どもの健康や家庭状況・学校での様子などを把握して育成支援している

登所時には非接触型体温計で検温して、体調を把握している。おやつや遊びの時などにいつもと違う様子が見られた時には、脇下体温計でも測定し、体温が高めで頭が痛い、調子が悪いなどの体調を総合的に判断して、保護者に連絡し、状況により迎えを要請している。また、子どもの発達や家庭の状況などは入会時に提出してもらった児童調査票や保護者との日頃のやり取り、面談などで把握している。学校での様子については学校ミーティングを月2回実施して、子どもに関する情報の共有をしており、必要に応じて副校長を通して担任とも情報共有している

月替わりの工作やけん玉・こま・ベーゴマなどの伝承遊びが盛んで、地域のイベントにも参加している

ピンポンソーやクリアファイル飛行機など、季節の工作や手作り玩具など、月替わりの工作をおこなっている。けん玉、こま、ベーゴマなどの伝承遊びが盛んで、検定表を基に検定を受けて技を磨いたり、トーナメント大会を開いたりして、子どもが楽しみながら上達できるように工夫している。検定員や大会の審判員は3年生が担当し、責任感を感じたり、信頼される喜びを感じたりする機会になっている。また、地域イベントとして、青少年協議会や小学校、地域子ども館が共催するどんど焼きに参加し、武蔵野中央公園で開かれるむさしのこどもまつりではけん玉を披露している。

自由遊びの時間には学童クラブ室に加えあそべえを利用して、自分のあそびたい遊びをしている

学校の授業がある日は授業終了後に登所し、15時15分頃から16時頃までのおやつ時間、16時40分からの17時までの帰りの会と17時から17時20分の宿題・読書の時間以外は自由遊びの時間になっている。自由遊びの時間は学童クラブ室で過ごしたり、17時まではあそべえ（放課後子ども教室）の教室や校庭開放、図書館開放などを利用して、遊びに来ている友だちなどと遊んでいる。遊びたいことが見つからない子どもには支援員と一緒に遊んで、その子の好きな遊びを見つかったり、他の子どもとの仲介をしたりしている。大人との関係を求めている子どもにはできる範囲で声がけをしたり、一緒に遊んだりしている。

サブカテゴリⅣ-3

子ども一人ひとりと集団全体の生活を豊かにする育成支援

評価項目 IV-3-(4)

子ども同士の関係を豊かに作り出せるように援助している

評点 (〇〇〇〇)

評価	標準項目
●あり ○なし ○非該当	① 集団遊びにおいては、異年齢で、また、大勢で遊ぶ楽しさを共有でき、良い仲間関係が築けるよう支援している
●あり ○なし ○非該当	② 遊びや生活の中で生じる意見の対立やけんか等については、お互いの考え方の違いに気付くこと、葛藤の調整や感情の高ぶりを和らげること等ができるよう、関わりを通して相手を理解する姿勢と許容する気持ちや忍耐力を養うよう支援している
●あり ○なし ○非該当	③ 異年齢集団での班活動や当番活動の中で、他の子どもへの積極的な関わりを促し、友達や年下の仲間を思いやる気持ちを育てるよう支援している
●あり ○なし ○非該当	④ 子どもの間でいじめ等の問題が生じないように配慮するとともに、万一、そのような問題が起きた時には早期対応に努め、保護者や学校と連携して適切な対応を行っている

サブカテゴリーⅣ-3-(4) の講評

**下級生は上級生の遊びを真似たり教えてもらったりして一緒に遊び、上級生は自信と喜びを感じている**

年齢の違う子ども同士と一緒に生活しているので、上級生の遊びを下級生が真似たり教えてもらったり、仲間に入れてもらったりして遊んでいる。上級生は教える、待つ、手伝うなどを経験し自信や喜びを感じている。また、子ども同士の意見の対立やけんか、人とかかわりを学ぶ機会ととらえ、支援員が間に入り、双方の子どもの気持ちを受け止めて丁寧に聴き取り、お互いが気持ちを言葉で伝え合い、相手の意見や思いを知ったうえでどう仲直りしていくかを経験できるように支援している。相手に怪我をさせてしまった場合には双方の保護者に状況を説明している。

**班長は班長選挙に立候補して選ばれ、上級生として下級生を思いやる気持ちが育ち受け継がれている**

テーブルごとの班にして、班長は3年生が班長選挙に立候補して決めている。おやつ前の片付けや班ごとに席につき、「静かにする」などの声かけは班長や上級生がしている。おやつを受け取る時の順番は1年生が先にすることも子どもたちに定着しており、下級生のペースに合わせて待ってあげることもできている。上級生のそのような役割や姿を下級生は見ているので、上の学年になると同じように下級生を思いやる姿が見られ、受け継がれている。

**子ども同士のいじめなどの問題が生じないように、子ども同士の関係性を注意深く見守っている**

支援員は子ども同士の関係性を注意深く見守っている。危ぶまれる場合には介入して、事実関係の確認をして子どもと話し合いをしている。必要に応じて保護者に状況を伝え、学校にも副校長を通じてクラス担任と情報交換をするなどの連携した対応をとっている。

サブカテゴリーⅣ-3

子ども一人ひとりと集団全体の生活を豊かにする育成支援

評価項目 Ⅳ-3-(5)

子どもが自分の気持ちや意見を表現することができるように援助している

評点 (〇〇〇)

評価	標準項目
● あり ○ なし ○ 非該当	① 人の話を聴く、自分の意思を伝える、相手の気持ちを受け止める等、人との関わりの中でコミュニケーションの力を培っていけるよう支援している
● あり ○ なし ○ 非該当	② 学童クラブの決まりやルール、遊び等に子どもの意見を反映させ、考える力や自主的判断、表現する力が養われるよう支援している
● あり ○ なし ○ 非該当	③ 一人ひとりの子どもの発達や子ども同士の関係を捉えながら適切に関わり、学年や成長に合わせて育成を行っている

サブカテゴリーⅣ-3-(5) の講評

**自分の言葉で伝える、相手の言葉を聴くことの大切さを繰り返し子どもたちに伝えている**

「自分の思いや意見を自分の言葉で伝える」、「相手の言葉も聴いて何を思っているのか理解し、どうすればよいか考えて言葉にしたり行動したりする」ことが大事であると、繰り返し子どもたちに伝えている。言葉によるコミュニケーションが苦手な子どももいるので、その場合は子どもの表情などから言葉にしない思いなどをくみ取り、支援員が仲介役となり、お互いの気持ちを伝え合うようにしている。

**イベントなどの行事には子どもたちの意見を最大限尊重して反映させている**

夏祭り縁日イベントやハロウィンイベントなどの行事は3年生会議で内容を考えている。毎日の帰りの会のゲームの内容も3年生が話し合っていて決めているクラブもある。子どもたちから出た意見は最大限尊重するようにしている。例年夏休み中に実施している「夏祭り縁日イベント」が本年はコロナ禍のために中止となったことから、話し合っていた内容をハロウィンフェスティバルに活かして実施した。「箱の中からSOS」に取り組んだグループでは、話し合っていて決めたことだけでなく、会場セッティングでも自分たちで意見を出し合い工夫し、協力して、ゲーム参加者がより楽しめるような会場作りをし、2・3年生は交代でお店の当番をして、自分たちでやり遂げた喜びを感じていた。

**一人ひとりの発達や子ども同士の関係を見守り、いつもと違う様子を気づくようにしている**

支援員は、子どもへの日頃の関わりから一人ひとりの子どもの発達段階や性格、特性などを理解して、子ども同士の関係を見守っており、子どもの雰囲気や表情、子ども同士の会話のやりとり、行動、遊び相手など、いつもと違う様子を気づくようにしている。一人ひとりの子どもの健康状態や気持ちの変化などは支援員間で情報を共有し、必要に応じて、保護者に伝えたり、子どもの悩みを聴いたり、間に入り上手くコミュニケーションが取れるように手助けしたりしている。

サブカテゴリーⅣ-3

子ども一人ひとりと集団全体の生活を豊かにする育成支援

評価項目 IV-3-(6)

地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている

評点 (○○○)

評価	標準項目
● あり ○ なし ○ 非該当	① あそべえと円滑な協力ができるよう定期的な打ち合わせを行い、子どもの遊びをより豊かにできるように連携している
● あり ○ なし ○ 非該当	② 地域の人たちと広く交流を図り、運営の内容を適切に説明するとともに、地域の協力を得て連携して子どもを見守ることができるよう取り組んでいる
● あり ○ なし ○ 非該当	③ 新1年生については、子どもの発達と生活の連続性を保障するために、保育所・幼稚園等と子どもの状況について情報交換や情報共有を行っている

サブカテゴリーⅣ-3-(6) の講評

**学童クラブとあそべえで月1回子ども館ミーティングを実施し、情報共有を図っている**

地域子ども館はあそべえと学童クラブを連携しておこなっている。学童クラブの子どもたちは自由遊びの時間にはあそべえに参加して、遊びに来ている子どもたちと一緒に遊んでいる。月1回子ども館ミーティングを実施してあそべえ、学童クラブ双方の子どもに関する情報や行事予定の共有、意見交換をしている。学童クラブでは、子どもたちが登所してくる前のミーティングで、あそべえの利用時間や知っておく必要がある情報、例えば、図書館開放が休みの日などを確認して職員間で共有し、子どもたちに伝えている。

**地域子ども館推進会議を開催し、地域の人たちに運営の内容を説明し、協力を得ている**

年4回、地域子ども館推進会議（子ども館長、支援員、あそべえ職員、学校長、副校長、地域コーディネーター、民生委員、コミュニティセンター代表、PTA役員、地域有志などが参加）を開催して、子ども館の活動内容や近況などを報告して意見交換をしている。地域での子どもの見守りもお願いしている。

**新1年生について、保育園や幼稚園との情報交換や情報共有をしている**

入会予定児童が多い地域の保育園には事前に職員が訪問して保育や児童の様子をみたり、必要に応じて担当保育士と情報交換をしている。その他の園についても、電話などで子どもに関する情報を確認し、必要に応じて訪問し情報共有をしている。保育園からの見学も受け入れている。

サブカテゴリーⅣ-4

固有の援助を必要とする子どもへの適切な育成支援

評価項目 IV-4-(1)

障害のある子どもの受入れの考え方を理解したうえで、受入れに努めている

評点 (○)

評価	標準項目
● あり ○ なし ○ 非該当	① 障害のある子どもの受入れの考え方を理解したうえで、受入れに努めている

評価項目 IV-4-(2)

障害のある子どもの育成支援に当たっての留意点を踏まえ、育成支援を行っている

評点 (○○○)

評価	標準項目
● あり ○ なし ○ 非該当	① 障害のある子どもの育成支援に当たっての留意点を踏まえ、育成支援を行っている
● あり ○ なし ○ 非該当	② 障害のある子どもや発達上に課題のある子どもが、学童クラブでの生活を通して共に成長できるように見通しをもって計画的な育成支援を行い、それぞれの特徴や状況に応じた遊びや生活の支援を行っている
● あり ○ なし ○ 非該当	③ 障害のある子どもや気になる子ども育成については、定期的に専門相談員に相談し、家庭、学校、関係機関等と連携し、子どもにとってより良い育成ができるよう努めている

評価項目 IV-4-(3)

特に配慮を必要とする子どもへの対応に当たって、関係機関と連携して適切な支援を行っている

評点 (○○)

評価	標準項目
● あり ○ なし ○ 非該当	① 特別の支援が必要な状況を把握した場合や、特に配慮を必要とする子どもへの対応にあたって、関係機関と連携して適切な支援につなげるよう努めている
● あり ○ なし ○ 非該当	② 虐待の疑いがある場合や、子どもや保護者に異変を感じた場合は、慎重かつ迅速に子ども家庭支援センター等に報告するとともに、連携した対応を図っている

サブカテゴリーⅣ-4 の講評

**障害のある子どもの特性や育成支援をする上での留意点などを踏まえ、受け入れている**

障害がある子どもについては、障害児入会審査会で専門家の評価やアドバイスを受け、入会後の育成支援の見通しを立てたうえで受け入れている。入会前には保護者面談を実施して、子どもの健康状態や、発達状況、育成に必要な配慮点、保護者の意向などを聴き取りしている。新1年生の場合は、在籍する保育園を訪問して、行動観察をし、児童の特性や必要な配慮などの情報を聴き取りしている。支援員は障害についての研修などに参加して特性や対応、配慮することなどを学んでいる。

**障害のある子どもの特性などを他の子どもたちにも伝えて、子ども同士の関わりが広がるようにしている**

一人ひとりの子どもの発達や特性に応じた育成目標を設定し支援している。必要な子どもには、遊びや生活の絵カードや支援員の顔写真を用意してカードで知らせている。他の子どもたちにも、障害のある子どもの苦手なことや好きなことなどを伝えて、その子どもの特性を理解して向き合えるようにしている。年度当初の学童クラブ全体の顔合わせで、特別支援学級の教諭に、障害児や特別な支援が必要な子どもについての講話をお願いして、障害児の苦手なことや一人ひとりの違いがあって良いことなどを、スライドを用いてわかりやすく伝えてもらっている。

**虐待などの疑いがある場合は関係機関と連携して対応している**

障害のある子どもや気になる子どもについては、年6回専門相談員による育成相談が実施されており、実際の育成状況を見てもらい、アドバイスを受けている。対象児が通学している支援学級などを訪問して担任教諭と情報交換をしている。また、学童クラブの子どもの様子や子どもとの会話から不審に思われることがある場合、子どもからの訴えや虐待が疑われる傷やあざなどを発見した時には、学校や子ども家庭支援センターに報告し、対応を協議して、在籍児童のケース会議がおこなわれる際には参加し、関係機関と連携して対応している。

サブカテゴリーⅣ-5

**適切なおやつを提供**

評価項目 IV-5-(1)

放課後の時間帯におやつを適切に提供している

評点 (○)

評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし <input type="radio"/> 非該当	① 補食となるおやつについては、放課後の時間帯に必要とされる栄養面や活力面を考慮し、内容や量、提供時間等を工夫し、子どもがおやつの時間を楽しめるように配慮している

評価項目 IV-5-(2)

食に伴う事故（食物アレルギー事故、窒息事故、食中毒等）を防止するための対応を行っている

評点 (○○)

評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし <input type="radio"/> 非該当	① 食物アレルギーのある子どもについては、おやつの提供にあたり配慮すべきこと、緊急時の対応等について事前に保護者と丁寧に連絡を取り合い、安全に配慮しておやつを提供している
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし <input type="radio"/> 非該当	② 窒息事故等がないよう、安全確認を徹底し、危機管理体制を整えている

サブカテゴリーⅣ-5 の講評

**補食となる栄養やカロリー、味などのバランスを考慮しておやつを提供している**

おやつは、成長期の子どもの補食（栄養補給）の役割もあり、栄養やカロリー、味のバランスを考慮して、おやつを選びおやつ表を作成している。市販のお菓子や果物、パンなどが中心のメニューで、焼きおにぎりやミニメロンパン、ちくわ、ヨーグルト、アイスなどを、栄養がバランスよく摂れるように組み合わせ、1日3種を用意し、その日のメニューから食べたい物を選ぶバイキング方式で提供して、好きなおやつを食べられるようにしている。飲み物は基本麦茶にしている。

**食物アレルギー対応は、独自のアレルギー専用おやつ表を作成して除去したおやつを提供している**

食物アレルギー児については「アレルゲン除去等申請書」と「診断書」を提出してもらい、年度ごとに保護者と面談して、アレルギー症状を起こす食品、症状、家庭での対応、保育園や学校での対応、学童クラブでの配慮点などを確認し、職員全員に周知している。独自の発注禁止リストを作成して、除去が必要なアレルギー品目を含むおやつはできるだけ発注しないようにしている。そして、独自のアレルギー専用おやつ表を作成して、除去したおやつを提供し誤食防止に努めている。おやつ提供の際にはおやつ提供マニュアルに沿って、職員間でダブルチェックをおこない専用の皿で提供している。アレルゲン食品が多く完全除去が困難な場合やアナフィラキシーショックを起こす可能性がある場合などは、おやつを持参してもらっている。

**おやつ時の窒息・誤嚥の事故に注意をしている**

おやつは子どもにとって楽しみの時間であり、ゆったりとして、楽しい雰囲気の中で食べられるようにしているが、現在はコロナ禍のため、テーブルにはパーテーションを設置して、大声ではしゃべらない黙食にしている。窒息事故や誤嚥事故にならないよう、おやつの形状やサイズに気を付けて注文し、おやつを食べている時には見守り、慌てて食べたり詰め込んだりせずに食べるように注意をしている。アレルギー児の誤配や誤食がないようにダブルチェックを実施している。

サブカテゴリⅣ-6

安全と衛生の確保

評価項目 Ⅳ-6-(1)

子どもの安全を確保する取組を行っている

評点 (〇〇〇〇〇〇)

評価	標準項目
●あり ○なし ○非該当	① 施設や遊具の点検整備を定期的に行い、安全性の確保に取り組んでいる
●あり ○なし ○非該当	② 学童クラブでの生活や行き帰りにおいて自らの安全を守るための行動について学習し習得できるよう援助し、安全指導を行っている
●あり ○なし ○非該当	③ 子ども本人や他の子どもの危険と安全に対する判断力が養われるよう配慮している
●あり ○なし ○非該当	④ 個々の子どもの通所コースを点検し、危険箇所等を子ども、保護者と共有することにより、通所時の安全を図っている
●あり ○なし ○非該当	⑤ 学童クラブでの育成中の事故、病気、怪我や子ども同士のけんか等のトラブルが生じた場合は、関係する子どもの保護者へ連絡するとともに、状況に応じて保護者や関係機関と連携協力することにより、迅速な解決を図っている
●あり ○なし ○非該当	⑥ 事故、犯罪、災害等から子どもを守るため、子どもの遊びや生活の環境及び帰宅時の安全等について、地域の人々の理解と協力が得られるよう努め、連携協力して子どもの安全を確保している
●あり ○なし ○非該当	⑦ 子どもの病気やケガ、事故等に備えて、日常的に地域の保健医療機関等と連携を図っている

評価項目 Ⅳ-6-(2)

衛生管理に関する取組を適切に行っている

評点 (〇〇)

評価	標準項目
●あり ○なし ○非該当	① 手洗い・うがいの励行により、衛生的習慣を身に付けられるよう支援している
●あり ○なし ○非該当	② 日々、施設や備品の清掃、おやつ等の衛生管理を行い、食中毒や感染症の発生の防止に努めている

サブカテゴリⅣ-6 の講評

**施設設備や一輪車点検、避難訓練、帰路点検などを実施して子どもの安全確保に取り組んでいる**

施設設備については毎日自主検査チェック表を用いて、戸締りや点検をして安全を確認している。一輪車保守点検を定期的に実施している。また、学期ごとに1回、大地震想定地域子ども館合同避難訓練をさまざまな局面や時間帯を想定して実施し、あそべえや学童クラブの連携を確認している。さらに、毎年度1学期初めに子どもの帰路点検を実施し、支援員がグループに分かれて、子どもたちの自宅の場所と通所コース（登校コース）、経路内の危険箇所を確認している。保護者会でも安全確認を依頼し、地域子ども館推進会議においても地域での子どもたちの帰路の見守りと情報の提供をお願いしている。

**学童クラブ内での事故、病気、怪我などは、保護者に連絡し、状況に応じた対応をしている**

学童クラブ内で事故やトラブルが生じた時には、関係する子どもの保護者に電話をして直接伝えている。怪我をして受診が必要と判断した時には、保護者に状況を伝え、受診先について了解を得てから受診している。受診後には受診の状況や医者からの指示などを保護者に電話を入れて報告し、必要に応じて迎えをお願いしている。また、地域における子どもの安全を確保するために、ホワイトイーグルの巡回を受けたり、市内の事故や犯罪の情報などを武蔵野防災・安全メールの情報で確認し、必要に応じて子どもたちへも注意喚起している。帰宅時に鍵がなく家に入れないなど、緊急時や困ったことがあった時には、クラブへ戻ってくるように子どもたちに伝えている。

**手洗いやうがいなどの衛生習慣が身につくように声がけし、おやつ提供時の衛生管理に努めている**

トイレ使用後の手洗い、おやつ前や外遊びの後などの手洗いやうがいは、子どもたちにその必要性を伝え、繰り返し声がけをおこない、衛生習慣が身につくようにしている。また、職員はクラブ室内の清掃や消毒なども実施している。おやつ提供時の衛生管理として、おやつの前・後にテーブルの消毒をおこない、テーブルにはパーテーションを設置し、おやつ提供時には三角巾とエプロンを着用し、個包装でないおやつに触れる時には手袋を着けている。

サブカテゴリⅣ-7

保護者・学校との連携

評価項目 IV-7-(1)

保護者との協力関係を築いている

評点 (〇〇〇)

評価	標準項目
●あり ○なし ○非該当	① 子どもの様子を連絡帳、クラブ便り、保護者会などを通じて保護者に伝えとともに、必要な個人面談を行う等、保護者との信頼関係を築き、家族と連携して育成できるよう取り組んでいる
●あり ○なし ○非該当	② 子どもの日常の様子を把握し、友達関係や行動等、気になることが見られる場合には、その理由や子どもの気持ちをくみ取るとともに、保護者と連携を密にし、適切な対応を図っている
●あり ○なし ○非該当	③ 保護者の信頼を得て身近な相談相手となれるよう努め、必要に応じて他の相談機関につなげている

評価項目 IV-7-(2)

学校との連携

評点 (〇〇)

評価	標準項目
●あり ○なし ○非該当	① 子どもの生活の連続性を保障するため、学校との連携を図っている
●あり ○なし ○非該当	② 定期的に学校と情報交換を行うなど、連携を図っている

サブカテゴリⅣ-7 の講評

**子どもの様子を連絡帳や毎月発行のクラブだより、年2~3回実施している保護者会で伝えている**

子どもたちは学童クラブに登所する日は、連絡帳を持参している。連絡帳には、帰宅時間と保護者の迎えの有無、迎えの場合は迎えの人を記入してもらい、必要に応じて子どもの健康状態や連絡事項などを書いてもらっている。学童クラブからも、必要な連絡事項などを記入して、家庭と学童クラブとで子どもに関する情報を共有している。子どもに関する情報で気になることは電話で伝えるようにしている。毎月、クラブだよりを発行して学童クラブ全体の様子を伝えている。保護者会は年2~3回実施して、子どもの様子をスライドショーなどでわかりやすく伝えている。本年度は1回目は5月に対面で実施し、2回目は7月にオンラインで実施している。2学期には希望者を対象に、20分程度の個人面談を実施している。12月の冬のお楽しみ会には保護者やきょうだいななども参加してもらい、一緒に集団遊びをしたり、一輪車、けん玉、百人一首の発表・披露をしている。

**子どもの交友関係や行動で気になることがある場合は、保護者と連携し、解決に向けた対応を図っている**

子どもの交友関係や行動などで気になることがある場合には、関わっている子ども達から聴き取りをおこない、事実関係を確認している。必要に応じて保護者へ伝えて、解決に向けて一緒に考え、取り組んでいる。また、保護者には、わからないことや心配なことがある場合はいつでも問い合わせてくださいと伝えてあり、相談があった場合には、一緒に解決策を考え、必要に応じて相談機関を紹介している。

**月2回、学校との打ち合わせを実施し、行事予定や子どもに関する情報交換をして連携している**

学校長と副校長、地域子ども館長、あそべえチーフ、支援員が参加して、月2回の定例打合せをおこなっている。学校や地域子ども館（あそべえ、学童クラブ）、それぞれの行事等の予定の確認や個々の子どもに関する情報交換をしている。子どもの様子で気になることがある場合や友達関係のトラブルがある場合には、クラスの担任教諭に学校での様子を聴いたりして、協力しながら解決を図っている。学童クラブへの登所が難しい子どもについては担任教諭と連携して対応している。

サブカテゴリⅣ-8

子どもの権利擁護

評価項目 IV-8-(1)

子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている

評点 (〇〇〇)

評価	標準項目
●あり ○なし ○非該当	① 職場倫理を具体的に明文化している
●あり ○なし ○非該当	② 虐待等の子どもの心身に有害な影響を与える行為の禁止と早期発見について明確な規定を定めている
●あり ○なし ○非該当	③ 職員による子どもの権利の侵害や虐待とみなされる行為の禁止について研修等を実施し、職員間で共有している

## サブカテゴリーⅣ-8 の講評

### 支援員などは「武蔵野市学童クラブ育成指針」で示された職場倫理を遵守し、育成支援に取り組んでいる

支援員などの職員は「武蔵野市学童クラブ育成指針」の読み合わせをおこなっている。職員一人ひとりが学童クラブとしての職場倫理を自覚し、子どもや保護者の人権に配慮し、一人ひとりの人格を尊重すること、児童虐待の行為をしないことなどを確認している。

### 支援員の責務を自覚して職務にあたり、児童虐待の防止や早期発見に努めている

「武蔵野市学童クラブ育成指針」に、支援員の役割を明文化してあり、それに基づいて職務にあたっている。子どもの言動や不審な怪我やあざ、着衣の様子などで、虐待の疑いがある場合、子どもや保護者に異変がある場合には、「虐待防止マニュアル」に沿い、地域子ども館長と相談の上、子ども家庭支援センターなどに報告し、学校などの関係機関と連携して対応することになっている。

### 子どもの権利についての研修に参加して学んでいる

全職員が子ども館職員研修、テーマ「子どもの目は輝いていますか～子どもの権利条約を子育て・保育活動に活かす」を受講し、子どもの権利について学んでいる。また、子どもの呼び方について、大人から子どもの名前を呼ぶ時には、相手を尊重し「さん、くん、ちゃん」を必ずつけることを全地域子ども館で確認している。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	IV-3-(1)	子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるように援助している
タイトル①	子どもが見通しをもって主体的に学童クラブの時間を過ごすよう援助している	
内容①	学童クラブ室には、ホワイトボードで今日の生活の流れや一人ひとりの降所時間を名札で表し、子どもたちはそれを見て、主体的に宿題や自習、遊びなど、自分の予定を自分で管理して生活している。学童クラブで過ごす共通の時間（片付け・おやつ・帰りの会、宿題・読書）はいつも同じに繰り返し、その他は自由に過ごす時間に行っているため、子どもは見通しをもって生活している。登所後すぐに座卓に座って宿題に取り組んでいる子どもや遊ぶ子どもとさまざまであるが、支援員は子どもが自分で決めて行動することを見守り、必要に応じて声がけをしている	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	IV-3-(3)	子どもが発達段階に応じた主体的な遊びや生活ができるように援助している
タイトル②	けん玉やベーゴマなどの伝承遊びが盛んで、子どもが意欲的に集中して取り組んでいる	
内容②	子どもが夢中になって楽しく遊べる遊びとして、けん玉やコマ、ベーゴマ、百人一首などを取り入れている。特にけん玉遊びは盛んで、受け継がれている。1年生も持ち方や玉の乗せ方を上級生に教えてもらい、苦戦しながらも少しずつ出来るようになり、けん玉検定を受けて合格し、けん玉プラバンをもらい、できたという喜びと次はこの技に挑戦しようという意欲をもって集中して取り組んでいる。教える2年3年生もけん玉熱が再燃して、取り組みを再開し、ますます上達している。武蔵野こどもまつりや冬のお楽しみ会では参加者や保護者に披露している。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	IV-3-(3)	子どもが発達段階に応じた主体的な遊びや生活ができるように援助している
タイトル③	みんなで協力して取り組むイベントなどさまざまな企画をしている	
内容③	学童クラブが、必要があつて行くだけでなく「楽しい、また明日も行きたい」と思える場所になるようにと、子どもたちが夢中になれること、楽しいこと、嬉しいことなどを企画している。毎月季節の工作や手作り玩具工作、月の誕生会を開いてお祝いしている。子ども達が熱中しているけん玉では、もしかめイベント、ベーゴマのトーナメント大会、百人一首大会も開かれている。行事では夏祭り縁日イベントやハロウィン、冬のお楽しみ会、春休みには遠足も企画している。その他、あそべえと学童クラブの合同イベントとして、1学期にはスポーツイベントの遊びひろば、2学期は秋のわくわくカーニバル、3学期には工作イベントなどもおこなわれ、自由に参加している。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	あそべえ（放課後子ども教室）と学童クラブが連携し、子どもの生活の幅を広げている
	内容	学童クラブはおやつや帰りの会以外の時間は自由に過ごせる時間としている。同じ学校施設内にあそべえ（放課後子ども教室）が用意されている。このことにより、学童クラブの友だちと過ごすだけでなく、あそべえに参加している他の異年齢の児童と一緒に、あそべえの教室や校庭開放、図書館開放などで、安心して遊ぶことができ、さまざまな体験や活動ができています。あそべえと学童クラブが連携し、子どもの生活の幅を広げている。
2	タイトル	異年齢の子どもが一緒に過ごし、上級生が下級生に優しく接したり教えたりする中で、思いやりの気持ちを育てている
	内容	小学校1～3年生の子どもと一緒に集団生活をしている。3年生は班の班長になったり、イベントや帰りの会のゲーム内容などを話し合って決めている。イベントの取り組みには3年生会議を開いて話し合い、準備やイベントの運営で活躍して1・2年生をリードし、上級生としての意識を高めている。けん玉検定やベーゴマ大会では判定員や審判員などを担当し、責任感や信頼される喜びを味わっている。コースごと降所する際には1年生を列の中間に入れてあげるなど、子どもたちが考えて行動しており、思いやりの気持ちを育てている
3	タイトル	会議体や外部のアドバイザーや育成相談員の巡回相談の仕組みを整備し、支援員の育成力の強化を図っている
	内容	今年度から法人全体で育成委員会と障害児委員会・主任会議を設置し、検討テーマを定め、支援員の育成力の強化を図っている。また、育成委員会では、おやつに関することや子どもへの大人の関わり方などについて検討している。法人全体で館長会議、主任会議などを開催し、共通課題について検討している。当学童クラブ内では、月に1回程度の館ミーティングなどで育成に関する話し合いをおこなっている。そのほか、法人契約によるアドバイザーや、障害児への育成に関しては市契約の育成相談員が巡回し、館長や支援員の相談に応じている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	利用児数が多い学童クラブであり、子どもが落ち着いてゆったり過ごせる環境のさらなる工夫を期待する。
	内容	市内で一番大規模の学童クラブで、200名以上の子どもが在籍し、5つのクラブに分かれている。昨年度まで4つのクラブであったが本年度5つにしたところである。そのうちの第2クラブは少し離れた場所ので、部屋は広く、70名程と一緒に過ごしている。静かに宿題や自習、読書をする時には部屋の舞台部分を使用するなどの工夫をしている。しかし、放課後にホッと生活し、自分の好きな遊びや友達との会話などを楽しむ場としては適切な人数とは言えない。子どもが落ち着いて過ごせる環境のさらなる工夫を期待する。
2	タイトル	苦情解決のための仕組みを確立し、保護者に周知していくことを期待する
	内容	入会案内をはじめとした保護者向けの通知に市役所の児童青少年課の連絡先等を載せている。また、市長への手紙や、公式ホームページからの問い合わせフォームなどにより、保護者が意見や苦情を表明できるようにしている。さらに、入会のしおりや保護者会資料等に「何かあればいつでもご相談ください」の記載をしている。しかし、保護者の苦情や意見を受け付ける窓口は特に設置されていない。苦情解決のための仕組みを確立し、保護者に周知していくことを期待する。
3	タイトル	ヒヤリハットの活用についてさらなる工夫を期待する
	内容	リスクが生じた際は、「事故報告書及び事故簿」や怪我以外対象の事故報告書などに事故内容・原因・対策などを記入し、職員間で共有し、再発防止に取り組んでいる。しかし、軽微なリスクに対しては、口頭により、職員間で共有している。「ヒヤリハット報告書」も用意されているが、活用されていない。リスクと気づいたときにすぐに記入できるシートへの変更を考えているところであった。事故対策のみならず、より良い支援に向けてもヒヤリハットの活用についてさらなる工夫を期待する。